

月刊

300



地図と学ぶ

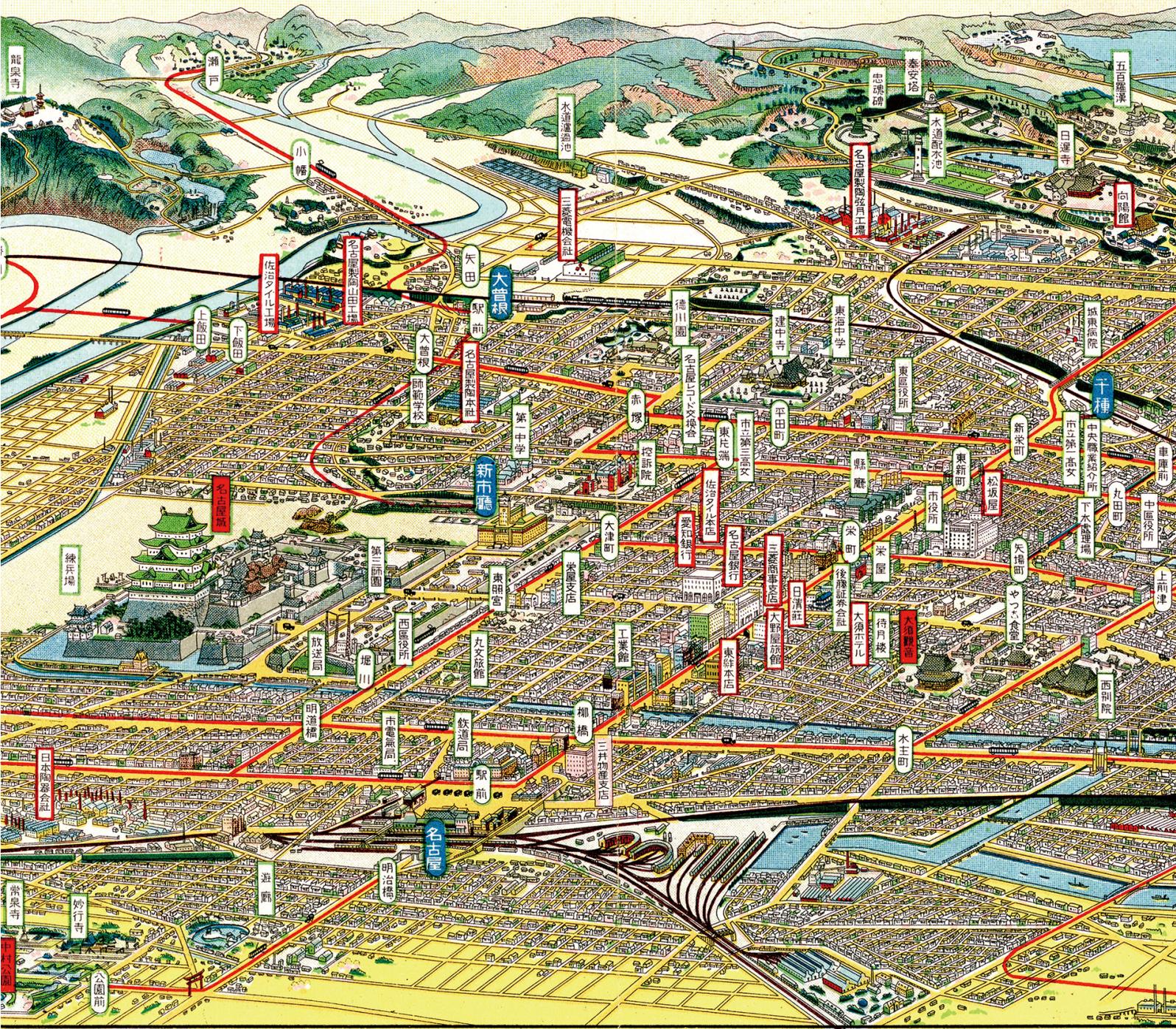
通巻

612

2023年9月

地図中心

総特集 今の名古屋は街でもっ!!



地図中心 612号 目次【総特集 今の名古屋は街でもつ!!】

2万5千分の1縮尺地形図から読み解く名古屋市60年の景観変化

千種区

東区 / 北区 / 西区

中村区

中区

昭和区 / 瑞穂区 / 熱田区 / 中川区 / 港区 / 南区

守山区

緑区

名東区

天白区

名古屋の鉄道の歴史風景—名古屋市電と名鉄瀬戸線

濃尾平野の地形と歴史上の災害

米軍が撮影した空襲と伊勢湾台風の被害

「観光の名古屋市とその付近」より「昭和八年大名古屋市鳥瞰図」画・吉田初三郎

名古屋周辺変遷地図

1891・1898 (明治24・31)年

1907 (明治40)年

1920 (大正9)年

1937 (昭和12)年

1953・1954 (昭和28・29)年

1987 (昭和62)年

1997・2004 (平成9・16)年

2019・2020 (令和元・2)年

1894 (明治27)年

1906 (明治39)年

1917・1923 (大正6・12)年

1930・1932 (昭和5・7)年

1954 (昭和29)年

1981 (昭和56)年

2004・2005 (平成16・17)年

2012 (平成24)年

寺本 潔 3

長谷川 裕記 6

林 上 7

岡村 佳和 10

早川 若仁 11

林 上 12

佐藤 航 18

林 上 19

有我 悟 20

林 上 21

高橋 悠 22

坂井 尚登 24

小林 政能 28

小林 政能 32

編集室 34

36

38

40

42

44

46

48

新刊地形図案内 / 50 今月新刊の見どころ!・日本地図センター便り / 51 編集後記・次号予告 / 52

月刊 地図中心

◆「地図中心」は毎月10日発行です◆

1冊 880円 (税込)

地図倶楽部

◆紙版と電子版のご購読会員

年間購読1年間 12冊

プレミアム会員

6,600円 (税・送料込)

プレミアム会員 (シニア) 満65歳以上

5,500円 (税・送料込)

◆電子版のみのご購読会員 (紙版は送付されません)

地図倶楽部会員	会費 (税込)	入会資格
一般会員	5500円	なし
一般会員 (シニア)	4400円	満65歳以上
学生会員	2200円	学生または18歳未満の方

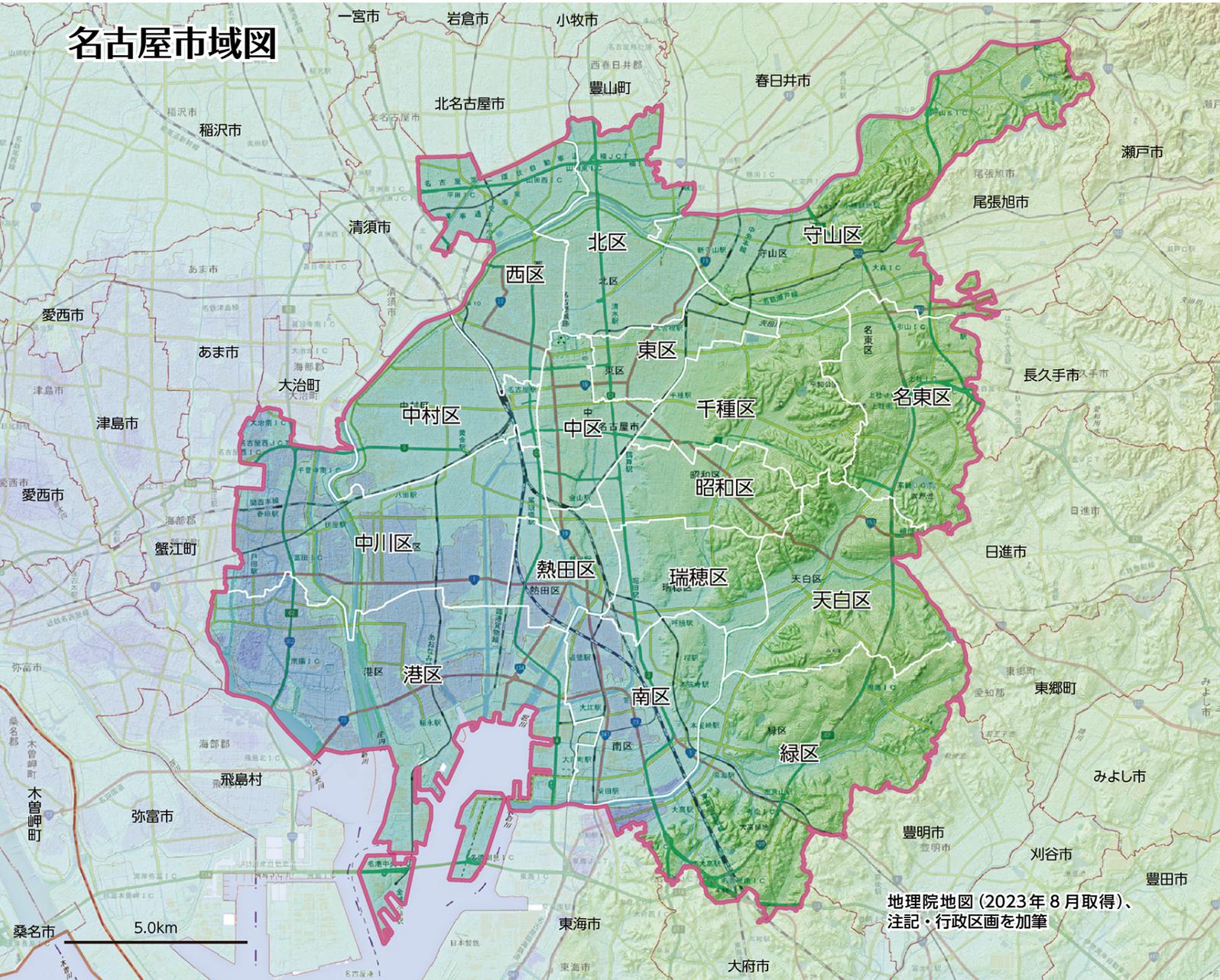
地図倶楽部事務局

map-club@jmc.or.jp 03-3485-5417

《表紙》

「昭和八年大名古屋市鳥瞰図」画・吉田初三郎 (P32-33掲載の部分図)

名古屋市域図



地理院地図 (2023年8月取得)、
注記・行政区画を加筆



2万5千分の1縮尺地形図から読み解く 名古屋市60年の景観変化

てらもと きよし
寺本 潔

1. 熱田台地と鳴海・東谷山の風景

名古屋城下は戦国時代、清洲越と呼ばれる移動により濃尾平野の中でわずかに高い熱田台地の上に築かれたことは有名だ。国土地理院発行「1:25,000 デジタル標高地形図 濃尾平野東部」を見ると象の鼻のように垂れ下がった台地の南端に熱田神宮を中心とした門前町が読み取れ、象の頭に当たる台地の北端には名古屋城郭が建造されたことがよく分かる(図1)。また、デジタル標高地形図で青く着色された低地から類推できるように、伊勢湾の海水は今よりも内陸に入っていて現在の緑区にある鳴海という地名からも想像できるように鎌倉街道や旧東海道からも海を眺めることができたようだ。城下の東部に至っては名古屋市守山区にある東谷山(標高198m)に続

く丘陵が広がり、近年古墳群ミュージアムを中心施設とする歴史公園の整備が同区の志段味地区に見られる。主な河川は名古屋市の北部を流れる庄内川(岐阜県では土岐川)であり、東部丘陵から南西に流れ伊勢湾に注いでいる。本稿では、名古屋市中心部に建設された久屋大通界隈と庄内川付近の二カ所に絞り60年ほど前の地形図(2.5万分の1縮尺・昭和30年4月発行)と現在(令和2年調製)の同じ図幅「名古屋北部」の比較から読み解く景観変化に関して現地調査も一部交えつつ解説してみたい。

2. 戦災の跡を読み解く

昭和30年の図幅で市街地中心部栄地区を読み取ると、家屋を示す黒い斑点が疎らで街路幅もそれほど広くない格子状の街区が読み取れる(図2)。これは、戦時下起こった

建物疎開と昭和20年の空襲により焦土と化した市街地の復興途中の姿を示しているのではないだろうか。戦前、名古屋市中心部には、繁華街や住宅、中小の機械工場が密集していたことから、米軍による焼夷弾の投下の標的になった。名古屋市中心部は昭和20年5月14日と17日、さらに6月9日の空襲により名古屋城天守が焼け落ち、多くの機械工場も爆撃されたことで焼け野が原と化した。現在の名城公園(名古屋城跡の北)は長く陸軍の練兵場であったため、戦後は米軍が駐留し地形図にも兵舎らしき長方形の建物が並んでいるのではないかと思われる。また、現在の名鉄瀬戸線につながるお堀電車(瀬戸電気鉄道・株)が名古屋城の内堀の中を走り、五条橋のたもとまで敷設されていた(ホーム跡らしき盛土は現存)のも地形図から読み取ることができる。

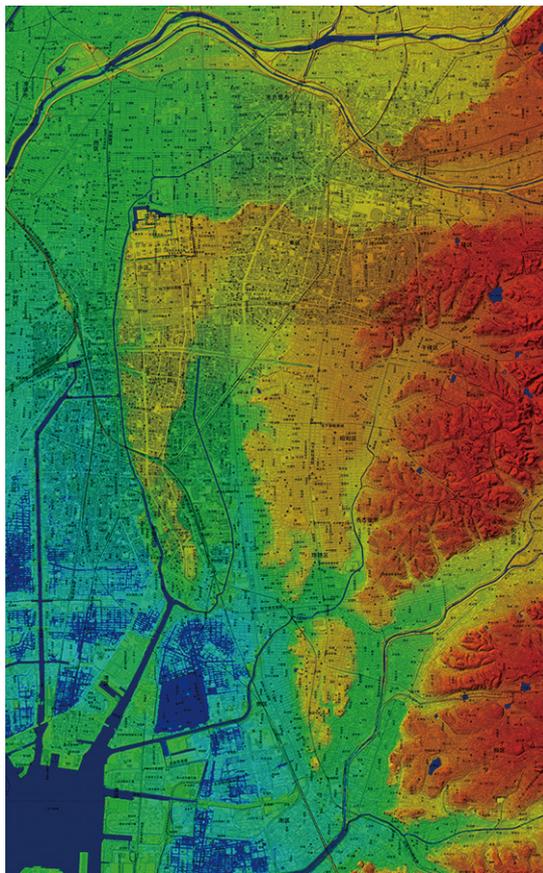


図1 デジタル標高地形図で見る熱田台地
M:25,000 デジタル標高地形図 濃尾平野東部(国土地理院 部分縮小)

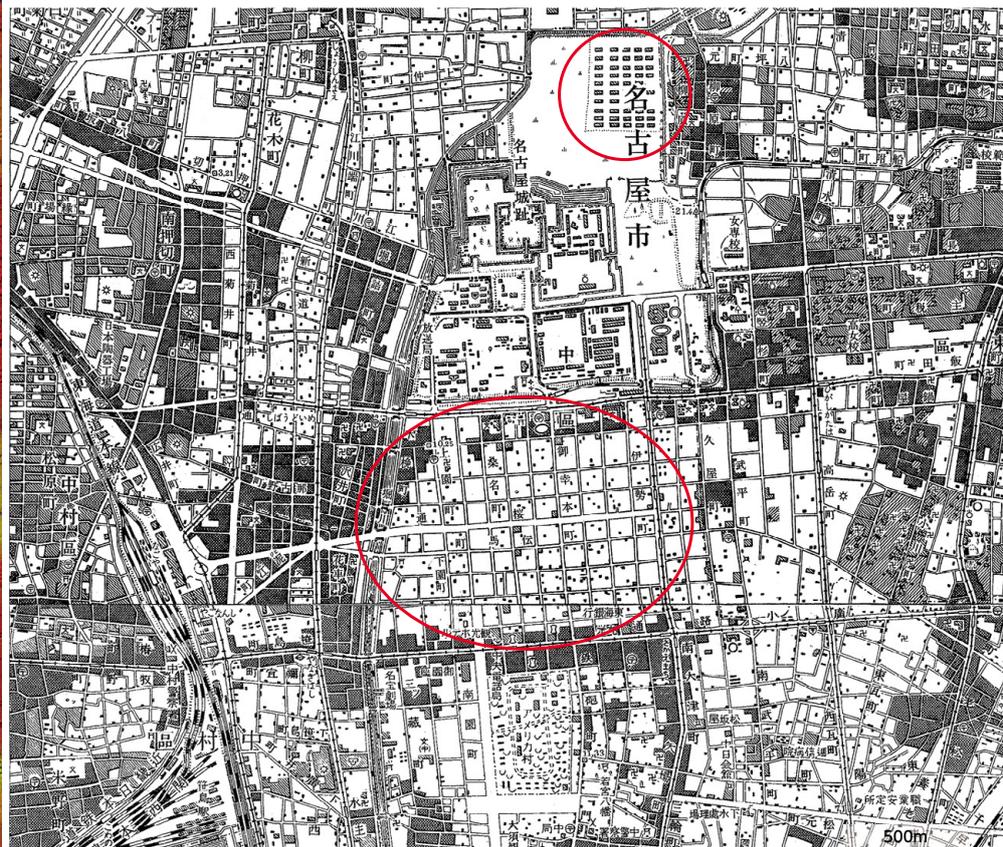


図2 栄付近 2万5千分の1地形図「名古屋北部」昭和30年発行、「名古屋南部」同25年発行(×0.75)

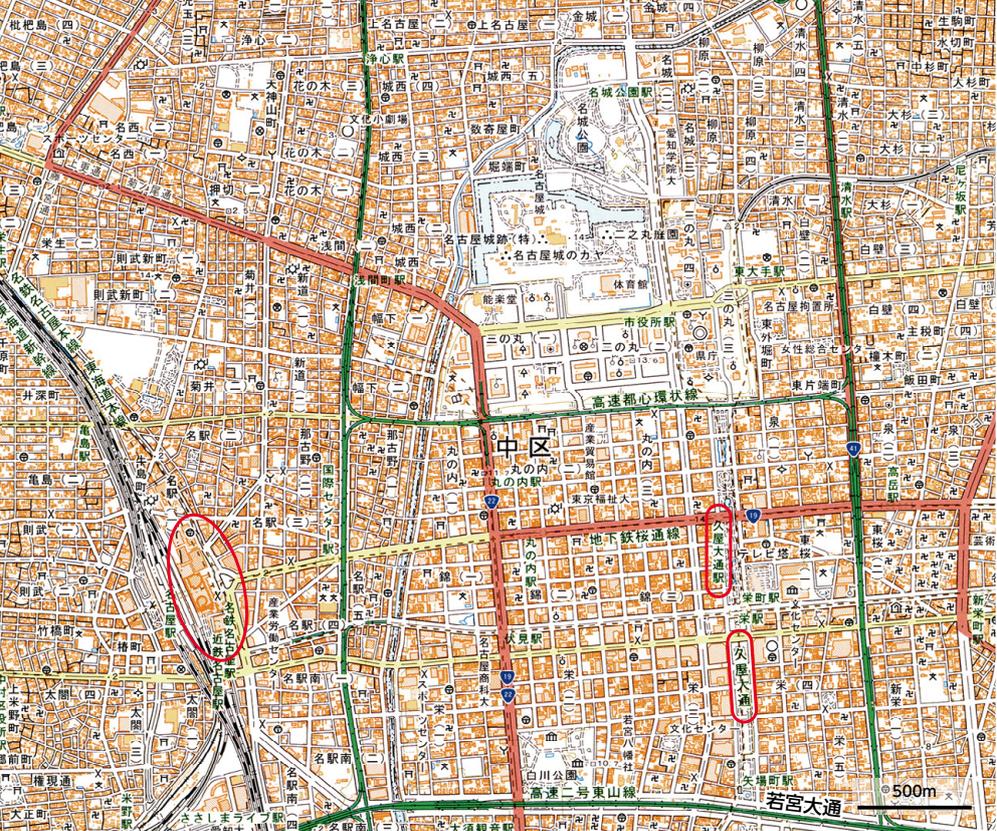


図3 栄付近 2万5千分1地形図「名古屋北部」令和2年調製(×0.75)

3. 庄内川沿いの改修と市街地化

昭和30年発行の「名古屋北部」(図4)でも現在の地形図(図5)でも、庄内川の洗堰と呼ばれる洪水時の越流を意図的に起こす堤防と庄内緑地の遊水地は両図でしっかりと読み取れ、治水の仕組みが分かるのも面白い。洗堰は、1784年、尾張藩主が庄内川右岸の堤を一部低くし、「洗堰」として新川に増水分を流す工事を行ったことで知られている。庄内緑地も遊水地である。この二箇所は名古屋市中心部である庄内川左岸(南側)の洪水対策を考える上では大事

な場所であり、治水を学ぶ上で典型的な題材となっている(写真1・2)。筆者も著者として参画した令和3年発行の検定教科書『中学社会 地理 地域に学ぶ』(教育出版)にも取り上げられている。庄内緑地の北にあった紡績工場跡地も現在は大型ショッピングセンターが立地し周辺地区の市街地化が著しい。

4. 100m道路の街並みと工業都市のイメージ

戦後の都市復興で幅員が100mを超す久屋大通(南北1.7km)と若宮大通(東西3.8km)の2本(図3)は、



写真1 堤防道路が一部低くなった洗堰の景観(2019年7月筆者撮影)



写真2 庄内緑地公園の景観(2019年7月筆者撮影)一角にある自動車学校の敷地は周辺道路より一段低い

今日、大都市名古屋の顔とも言えるインフラとなっている。昭和21年より実施された復興計画を担当したのは市の土木技官であった田淵寿郎である。田淵は道路幅を自動車2台が速度を落とさずにすれ違えるように幅8m以下の道路は造らない、鉄道は立体交差にする、延焼防止と避難路確保のために100m道路で市中心部を四分割するなどの大胆な土地区画整理事業を推進していった。とりわけ、1979年までに中心部にあった寺院(278)と墓地(18万7千基余)を市の東部丘陵地に移転させ現在、平和公園と呼ばれる一帯に集めた英断は特筆に値する。思い切った墓地移転により18万

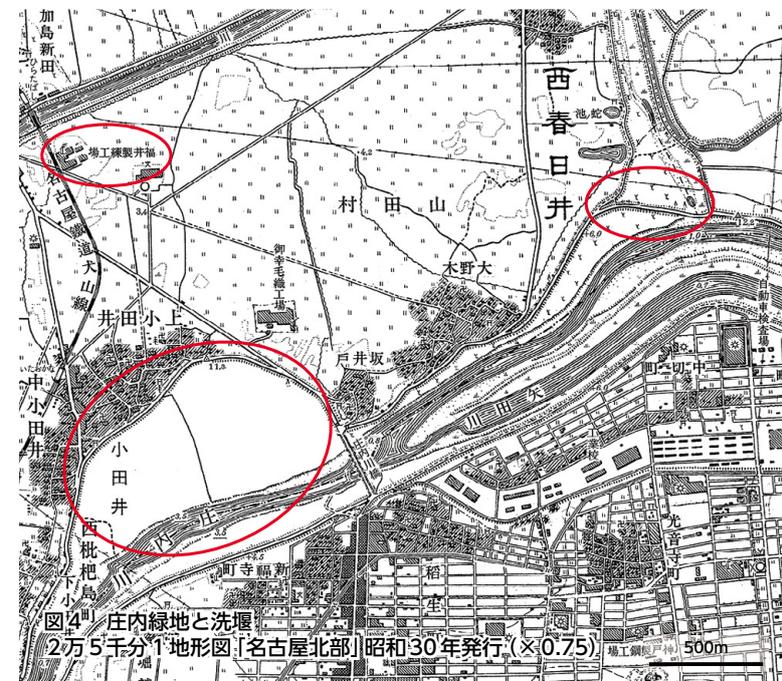


図4 庄内緑地と洗堰 2万5千分1地形図「名古屋北部」昭和30年発行(×0.75)

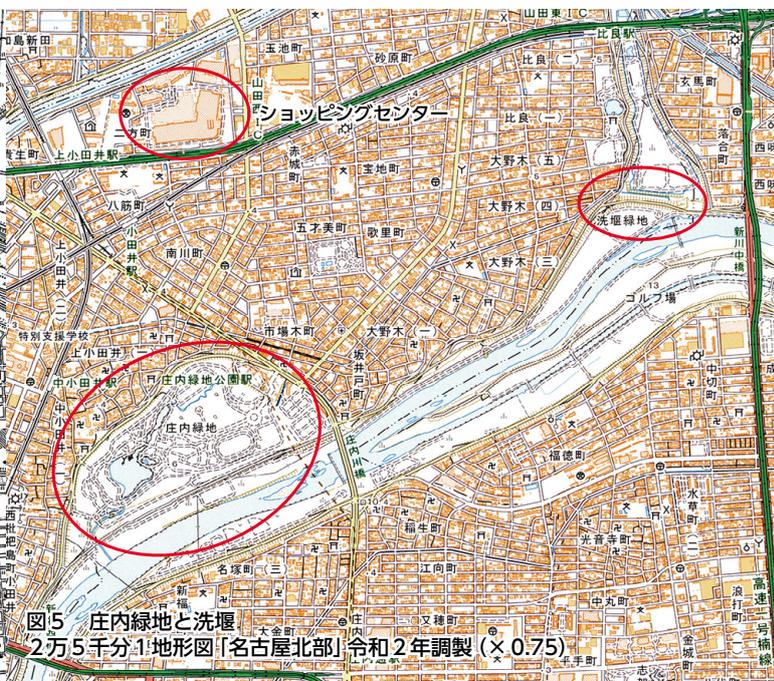


図5 庄内緑地と洗堰 2万5千分1地形図「名古屋北部」令和2年調製(×0.75)



2000m²に及ぶ土地が市街地中心部に生み出され、道路や公園の整備に一役買ったことは有名だ。なお、当時ほかの大都市でも同様の試みが実施されたが100mの幅員が二本も建設された大都市は名古屋だけ(ほかには広島市に一本実現)である。

もう20数年前の個人的な記憶になるが、(財)名古屋都市センターが英国の都市計画家を講演に招いた際、筆者が出迎えお世話したことがあった。その方を乗せて若宮大通を車で案内した際、「名古屋は工業都市と思っていたが、とても美しく工場も目立たず立派な街ですね。」との方が発言していたことを思い出す。名古屋イコール工業都市であるとの印象は、海外でも認知されている証拠であるが、実際は風格ある街路を有した産業文化都市である点を強調したいものである。

5. 高層化が著しい名駅界限^{めいえき}

筆者が愛知県内の大学に勤務し始めた1983(昭和58)年前後、名古屋駅舎は未だ国鉄時代の建物が使われ低層のタイル貼りのビルだった。昭和30年発行の地形図を見ると駅前には空地が多く市電の路線だけが目立っている。名古屋駅前や栄地区が整備され始めたのは世界デザイン博覧会(名古屋市白鳥公園をメイン会場として1989年開催)以降である。今日、栄地区よりも高層ビルの建設が相次いでいるエリアはJR名古屋駅界限だ。JR東海タワーズやゲイトウェイビル、大名古屋ビル、ミッドタウン名古屋、KITTEビル等、目新しい高層ビルが林立している。名鉄百貨店とその地階にある新名古屋駅の改築も間近となっており、将来リニア新幹線の開業も相俟って名駅(めいえき・名古屋駅の略称)のターミナル性は一層高まるだろう。そのせいもあり、名駅に近い土地やマンションの不動産価格は

上昇が続いている。大都市名古屋には、名城公園や鶴舞公園(名古屋市初の都市公園、最近、ツルマガーデンと呼ばれる商業施設も付設され注目を集めている)、熱田神宮等のまとまった緑地もある。名古屋市は環状の地下鉄も有し、地上の道路幅員も広いため渋滞は他都市に比べ緩和されている。テレビ塔の地階に広がる栄地下街が発達しているため、その分地上の賑わいが京都や大阪、東京に比べると弱い印象を拭えないが、最近久屋大通の改修により100m道路の幅員を活かした商業施設や水面のある広場が整備されている(写真3)。



写真3 テレビ塔(中部電力ミライタワー)が景観のアイストップとなる久屋大通(2023年6月筆者撮影)

6. 守山区の古墳群と中心部に残る洋館

名古屋市北東の郊外の区として守山区がある。庄内川に沿った細長い面積を持ち、ベッドタウンの様相を呈してはいるものの、志段味地区の公園整備と相俟って良質な住宅地が建設されている。志段味古墳群ミュージアムと復元古墳を最近見学したが、充実した展示施設であり、レストランや幼児・児童用スペース(こどもこふん)、古墳工房も完備し魅力ある公園になっている(写真4)。縄文遺跡も出土しているため、古代から引き継がれる地域イメージづくりが成功すれば、戦国時代の魅力と結びつき名古屋の新たなイメージアップが果たせるだろう。また、名古屋城東に白壁や撞木町、主税町

という地名を見出せる街区がある。この辺りは「文化のみち」として和風建築や瀟洒な西洋館がいくつか立ち並ぶ数軒街となっている。武家文化や近代化遺産として都市整備が進められている(写真5)。加えて地形図からは読取りにくいだが名古屋には大須商店街と円頓寺商店街の二大賑わいスポットもある。まずは、最新の地形図で都市の基盤をつかみ、数十年前の地形図との比較を通して、都市の成り立ちを理解する愉しみを味わいたい。



写真4 志段味古墳群の整備で復元された大塚古墳(2023年6月筆者撮影)



写真5 女優川上貞奴の住まいであった二葉館(2023年6月筆者撮影)

〈参考文献〉
井澤知巨著(2023)『名古屋都市空間論』風媒社、277p.
井沢元彦(2018)監修『ナゴヤ歴史探検』名古屋市教育委員会、106p.

寺本 潔



1956年熊本市生まれ。愛知教育大学教授・玉川大学教授を経て現在、東京成徳大学特任教授。主著に『地理認識の教育学—探検・地理区から防災・観光まで—』帝国書院

編集後記

28～31ページで取り上げている米国国立公文書館所蔵米軍撮影空中写真は、太平洋戦争・戦中(28・29ページ)と戦後(30・31ページ)の撮影で大きく異なる点があります。戦後の撮影では、撮影高度が10000ft(約3000m)などと低く精細な写真が多くあります。しかし、太平洋戦争中は、戦時下であり31000ft(約10000m)と高高度撮影の偵察写真がほとんどです。

B-29を改造した偵察機F-13が所属する第3撮影中隊(3PR)によって多数撮影されています。28・29ページも、第3撮影中隊による撮影。しかし、第3撮影中隊以外に撮影された写真もあります。右の写真は、その中の一枚で、第21爆撃機集団(21BC)が空襲の最中に撮影したものです。B-29の爆弾投下口にセットしたカメラで撮影されたと思われる。この写真には、投下された直後で、まだ空中にあって落下しつつある焼夷弾が14発ほど写っています。この直後に、これらの焼夷弾は、地面に到達して火災を発生させたかと思うと、心が痛みます。

(編集長・小林政能)



上の写真の白枠内拡大

次号予告 2023年10月 通巻613号

毎月10日発行

地図と学ぶ月刊

地図中心 特集 作る人の地・食べる人の地

「餃子の消費1位は？」…毎年話題になる総務省の家計調査は、多くの項目について都道府県庁所在市と政令指定都市のランキングを公表しています。また、農林水産省の統計情報からは、都道府県の生産量のランキングがわかります。総務省・家計調査と農林水産省・統計情報を地図で照らし合わせます!!

茶(荒茶・緑茶)

順位	農林水産省・統計情報		統計情報/人口推計		総務省・家計調査	
	総生産量(t)		一人あたり(t)		一人あたり(円)	
1	静岡県	29,700	鹿児島県	16.81	静岡市	8,504
2	鹿児島県	26,500	静岡県	8.23	鹿児島市	5,651
3	三重県	5,360	三重県	3.05	長崎市	5,637
4	宮崎県	3,050	宮崎県	2.87	浜松市	5,530
5	京都府	2,450	京都府	0.96	相模原市	5,436
6	福岡県	1,650	熊本県	0.74	佐賀市	5,009
7	熊本県	1,280	福岡県	0.32	横浜市	4,669
8	埼玉県	728	埼玉県	0.10	千葉市	4,553

農林水産省・統計情報：令和3年度、総務省統計局・人口推計：2021年10月1日現在、総務省統計局・家計調査：令和2～4年平均

バックナンバーのご案内

地図中心

検索

「地図倶楽部」へのご入会をお待ちしています! 03-3485-5417(事務局)

地図中心 2023-9 通巻612号

発行 2023年9月10日
 発行所 一般財団法人日本地図センター
 〒153-8522
 東京都目黒区青葉台4-9-6
 電話 03-3485-8125
 FAX 03-3485-5593
 (「地図中心」編集室)
 メール chushin@jmc.or.jp
 URL https://www.jmc.or.jp
 ©一般財団法人日本地図センター
 定価 880円(税込)
 印刷所 昭栄印刷株式会社

地図と学ぶ月刊誌



本誌の一部あるいは全部を無断で複写・複製・転載することは、法律で認められた場合を除き、禁じられています。

発行 一般財団法人日本地図センター 定価880円(税込)

雑誌86689-09



4910866890935 00800